

● 水町エム・アールクリニック千駄ヶ谷に最新機器導入

4月にキャノンメディカル社製MRIとCTを導入します

水町メディカルグループでは、キャノンメディカルシステムズ株式会社（本社：栃木県大田原市）から、新しいMRI（核磁気共鳴画像撮影装置）とCT（コンピューター断層撮影装置）を導入し、水町エム・アールクリニック千駄ヶ谷（渋谷区千駄ヶ谷1丁目1-16）に設置、稼働させる運びとなりました。またCTは建物の1階に設置し、より移動しやすい環境を整備いたします。

新しい機械が導入されることにより、検査時間の短縮が期待できるとともに、より多くの画像をより鮮明に撮影することが可能になります。これらの特徴を踏まえた新たな検査・診療のメニューもできるだけ早くご案内・開始できるよう準備してまいります。

なお、水町エム・アールクリニック千駄ヶ谷にて導入に係る工事が始まるごとに、大きな音や多少の振動等で皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと存じます。予めご了承いただければ幸甚に存じます。

● 「がんの遺伝子検査」と「乳房MRI検査」今春スタート



(写真)林田 哲先生

水町クリニックでは今春、当院にて乳腺外来でご活躍頂いている林田哲先生（慶應義塾大学医学部外科学専任講師、慶應義塾大学病院ブレストセンター長）に主導していただき、2つの新たな試み「がんの遺伝子検査」と「乳房MRI検査」を開始することになりました。

「がんの遺伝子検査」～自分の「がんリスク」を知る～

正常な細胞ががん細胞に変異する際、通常は複数の段階を経て変異するものですが、人によってはいきなり一回の変異でがん細胞になってしまうこともあります。細胞が変異する要因は食物や食品添加物、たばこ、飲酒、くすり等様々ですが、通常はこれらの要因に暴露されてもすぐにがん化しないための遺伝子《がん抑制遺伝子》が活躍します。このがん抑制遺伝子が生まれつき働きにくい家系が、所謂「がん家系」と呼ばれているのです。

家族やご先祖にがん患者が多い事例はこれまで漠然と「がん家系」といわれてきましたが、医学の発達で《がん抑制遺伝子》が数多く同定され、検査によってこれらがわかるようになってきました。米国では2019年5月の段階で、2850万人（国民11人に1人）がこれらの遺伝子検査を受け、健康管理に利用されています。

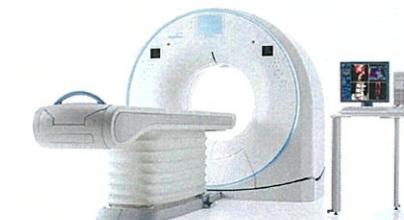
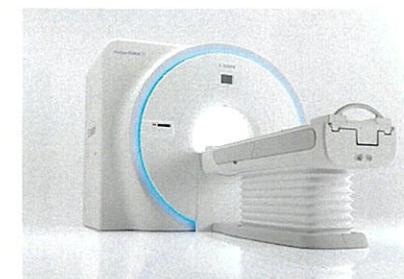
「乳房MRI検査」～痛くない乳がん検診、遺伝子検査との組み合わせで万全に～

4月から稼働する新しいMRIでは、乳房を撮影してがん細胞を発見する「乳房MRI検査」が可能となりました。ドイツの専門家グループの調査によると、マンモグラフィーとMRIでがんの検出率を比較したところ、マンモグラフィーで56%だったのに対して、MRIでは92%と圧倒的な違いがあったそうです。そして何よりも、マンモグラフィーのように痛みを伴わずに検査が可能であること、放射線を使用しないので被曝の心配がないのも利点として挙げられます。

そこで前述の「がんの遺伝子検査」と組み合わせることで早期発見・根治の可能性を向上させることができます。遺伝的に乳がんになりやすい方は、乳がんの生涯発症リスクが80%を超えてまいります。しかし、年2回の「乳房MRI検査」により早期発見を行えば、生存率が改善することがわかっています。

水町クリニックでは、今回の林田先生による乳がんの取組を手始めに、他のがんの早期発見・根治に向けた試みを「遺伝子検査」と組み合わせて実施していく予定です。

※より詳しい内容とご案内を近日中に改めて紙面でご紹介いたします



(写真)新しく導入される機器。
 ①MRI「Vantage galan 3T」
 ②CT「Aquilion Lightning / Helios Edition」

令和2年 開院39周年に寄せて

令和2年に入り早1ヶ月あまり過ぎました。

久々の発行となりました「THE MIZUMACHI Quarterly」は、昨年12月に開催いたしました「水町クリニック・メディカルグループ忘年懇親会」の模様や、更にはゲノム（遺伝情報）を利用した「がんの遺伝子診断」の開始など、皆様にご提供する新たなサービスにつきましてご案内いたします。



水町クリニックは令和2年2月1日をもって39年目に入りました。作家半村良氏によって例えられた「誰の故郷にもなり得ない街」『西新宿』に錨を降ろしたあの日を想起すると今更の如く過ぎ去りし日々が甦ります。開院式的前夜、赤坂のホテルニュージャパンが全焼。その翌朝、羽田沖で日航機が墜落。この2つの突発事故をテレビでレポートする露木茂氏（フジテレビ）が、開院式的司会予定者でした。現場からの中継を続ける露木氏の姿をテレビで眺めながら、果たして開院式に間に合うのかとハラハラしたものでした。然し彼は約束を果たしてくれました。

以来時は流れて幾星霜、林立する高層ビルの数々を眺めていると、かの半村良氏が例えた西新宿の高層街はまさにビルの谷間を探すのも困難なほどに劇的な変貌を遂げました。されど小説『高層街』の舞台として描かれた「大町クリニック」こと『水町クリニック』はその厳しい怒濤の中を連綿と谷間の花の如く生き続け今日に至りました。治療医学から予防医学へそして『総理の随行医』に始まる政界の代議士諸兄との交流を経て社会環境医学へと昇華致しました。予防医学を支えるための会員制医療も多くの方々の御理解の許に充実して参りました。会員制の発足時、故鈴木善幸総理から「羊頭狗肉」にならない様にとの御言葉は今も私の胸の中に生きています。

慶應大学病院・東京医科大学病院の専門医との交流は他の医療機関には真似の出来ない一体感を持つて存在しております。又、20年前に何処よりも早く会員の為に発足させましたMR I・CTの画像診断クリニックは、本年4月よりMR I・CT共に革新的パワーアップした機種を導入致します。これに伴い脳外科大平医師を慶大より理事長として迎えます。加えて水町クリニックに於いて小田原教授（東医大）による糖尿病外来の強化や先端医療の極みとして林田講師（慶大）によるゲノム医療の導入を図ります。従来からの肝胆膵の糸井教授（東医大）の特別外来や北川教授（慶大病院長）の上部消化器外来はもとより、各々新しい専門医陣を招へいし、更に更に小生と共に明日を目指す所存です。皆様方には絶えることのない「安心と信頼の心地良さ」を提供し、社会からは頼られることの歓びを誇りとしつつ歩んで参りたいと存じます。

振り返ると来年は当クリニック40年目という節目を迎えます。皆様の健康をお支えする先頭に立ち、共に働く医学徒の心を一つに束ねて邁進致します。その光と影を抱きながら医療の絆を礎に一石を投じつつ社会に働きかける集団でありたいと思います。

医師である以上に社会人として又、人間として常に求められる存在を目指し、意義ある40周年に向かいたいと存じます。皆様と共に更なる心の琴線に触れあえる優れた医療機関でありたいと祈念致します。

[水町クリニック・メディカルクラブ 忘年懇親会開催]

令和元年12月12日、港区東麻布の「中国飯店 富麗華」に於いて、「令和元年 水町クリニック・メディカルクラブ忘年懇親会」が挙行されました。

令和への改元や自然災害の多発など、激動の年となった一年の慰労と親睦を深めるとともに、来る年のさらなる飛躍を祈念して催されたこの忘年懇親の宴には、メンバーの皆様は勿論のこと、医学界、政財界、芸能スポーツ他多方面から140名近い方にお越しいただきました。



横倉 義武 様
公益財団法人日本医師会 会長



学校法人東京医科大学理事長 矢崎 義雄 様



学校法人岩手医科大学理事長 小川彰 様



福岡県知事 小川洋 様



全日本トラック協会会長 坂本克己 様



プロ野球解説者 江本孟紀 様



ミキハウスグループ社長 木村皓一 様



東京都知事 小池百合子 様



国家公安委員会委員長 武田良太 様



二階俊博 様
自由民主党幹事長・衆議院議員



2回目の乾杯は
お集まりの国会議員の先生方と共に
(中央) 自由民主党幹事長代理 林幹雄 様



読売ジャイアンツ投手 岩隈久志 様



乾杯に使われた長崎知事おすすめの
「グレイス甲州」



(乾杯ご発声) 山梨県知事 長崎幸太郎 様



厚生労働大臣 加藤勝信 様



内閣官房副長官 西村明宏 様



(左) 慶應義塾大学病院 循環器内科専門講師 木村雄弘 様



(中) 東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科主任教授 小田原雅人 様



(右) 慶應義塾大学 医学部外科学専門講師 林田哲 様

暮れのお忙しい中、多くの方にお集まりいただき、ありがとうございました。